

I 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

- マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。
- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
 - 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
 - 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
0 1 2 3 4 5
0 0 ● 0 0 0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

「幻想」という言葉は、今日、それがかつてもっていた迫力やうさんくさをすっかり失ってしまったが、すでに(注)エルンスト・ブロッホは、一九三五年の「技術と幽霊現象」という一文のなかで次のように書いていた。

今日、恐れをそそる邪悪なものは、数多く存在している。しかし、お化けを呼びだすような独特な恐怖は稀になった。語られる経験としてはたしかに愛好されてはいても、そうした不気味な経験に触れられる人はごくわずかになってしまっている。生活はそうして無気味さもなく流れ、例外があつてもおおかたは幻影か嘘でしかない。残るものも、戦慄(り)的というよりもむしろ影がうすくなっている。

(片岡啓治他訳『異化』、現代思潮社)

ブロッホによれば、かつての時代には「農夫の三人に一人は家付の精霊をもち」、「悪魔が夜陰の部屋の壁にひしめき、時に一つの眼、またあるいは一本の舌が突如あらわれる」のおののいていた。「森々には、荒くれたあるいは優しい幽霊どもが住みつき、辻々には頭のない男ども、サタンに追われる苔女(こけむすめ)がやどる。町々にさえも、夜の妖怪が存在した」。

ブロッホは、「夜がどんなに暗いかを、もう誰も知らない」と言うが、(1)こうした変化は、民話の機能変化のなかにもはつきりとあらわれている。ジャック・ザイペスの『魔術的呪文をうちやぶる——民話とお伽話のラディカル理論』(一九七九年)によると、ヨーロッパの民話は、おおむね、十七世紀までその口誦(オラトル)文化の伝統を維持していたが、やがて以下のような変化をとげていった。

十七世紀までの民話は、農村、城、町、森の広場などを舞台に、貧しい農民、樵(きり)、兵士、(4)ドンヨクな王、美しい姫などがくりひろげる話をあくまでも下層階級の側から物語り、また、そうした物語のなかには、(注2)アニメイズム、

(注³) トーテムイズム、人間と動物との交感といったふるいモチーフのヴァリエーションがみられた。

ところが、十七世紀後半から民話の本質を変えるような変化が徐々に起こる。シャルル・ペロー(一六二八—一七〇三年)は、一六九七年に、民間説話を採集した『小話集』をまとめたが、この頃から、民話が文字化され、様式化される傾向が急速にたかまった。これは、一方で、民話の「受け手」の層を文字の読める上流階級にまでひろげることになったが、その反面、物語のディテールに上流階級の視点や考えが入ってくるようになっただけでなく、本来は口誦文化の伝統に属していた民話を文字文化の伝統、つまり支配階級の伝統の方へひきずりこむことになった。ここでは当然、民話がかつてもっていた反権力的なうさんくさは洗練され、今日お伽話を意味する英語の *fairy tales* もフランス語の *conte de fées* つまり「優美な物語」という言い方もこの時代に定着した。(その際、ドイツ語にはお伽話を単に *Märchen* つまり「小話」と表現する言い方が継続されたのは、西ヨーロッパでもドイツは最後まで民話のプロトタイプを維持してきたことを意味するのかもしれない。)

歴史的に言つて、a 的なものは、支配階級に吸収されるか弾圧されるかのいずれかの道をたどってきたが、十八世紀になってブルジョワジーが勢力を得るにつれて、もともと反ブルジョワジー、反中流階級の傾向をもっていた民話は、世の支配的傾向からはずれたものとなつていった。ブルジョワジーにとつては、規律、勤勉、実用性の文化こそ「健全」であり、民話は「理性的」ではないということになった。かくして、かつては大人のためのものであつた民話が、十八世紀の後半には、子供部屋にb されてしまうのである。

ただし、民話のa 性はそんなことでは決してチツソクさせられはしなかつた。十八世紀から十九世紀初頭にかけて、そうしたa 性——つまりは民話のもつうさんくさく、おどろおどろしい部分⁽²⁾が、それらをチツソクさせようとする囲いを突きやぶつて一斉に姿を現わす。もつとも、それは民話の一つの終末ではあつただが。

プロッホは、サベルとラウンの『妖怪の書』(一八〇五年)から「妖怪が終るとき彼らの歴史がはじまる」という言葉を引用しながら、「まさしくこの時期、ただこの時点でのみ、本来の怪奇小説もまた、今は終つた妖怪の戦

慄をそその残像複製として、シラーの『見霊者』やジャン・パウルの『ティタン』をともかくも手垢にまみれぬ形で含みこむような文学ジャンルとして、栄えるのである」と言っている。事実、この時期には、民話の貴族趣味の様式化に反対するロマン派の民話ルネッサンスも起り、グリム兄弟の仕事にもみられるように、民話の原型を口誦的文化の伝統に忠実に採集する作業も行なわれた。また、この時代にはドイツでは、クンストメールヒェン (Kunstmärchen) という新しい民話のジャンルが生まれ、従来の民話には出てこなかった芸術家や英雄といった「主体的」な要素がそこにとり入れられ、民話が久しく忘却させられてきたユートピア的、造反的側面が復活した。

しかしながら、パリ・コミューンが長くは続かなかつたように、そしてオスマンによるパリの都市計画が、都市の民衆ホウキを不可能にするような軟構造支配の都市をつくることであつたように、十九世紀後半以後、民話もひじょうに計画的ともいえるやり方で「社会化」されてゆく。すなわち、民話はこの時代に、道徳的・教訓的な要素を注入され、また、今日、われわれが民話というもののなかに思いえがく空想的・幻想的な印象も、この時代に定着したのだつた。

こうした傾向はもつとまえからあつたし、⁽⁴⁾ 神話や寓話の一つの機能は、ある種の文化操作にあつたと言える。たとえば、^(注4) ヴァルター・ベンヤミンはある寓話をとりあげて次のように言う。

小学校の教科書に、ひとりの老人についての寓話がついていた。この老人は臨終にさいして、自家の葡萄山には宝がうずめてある、と息子たちに教える。しかし、いくら息子たちが山を掘りかえてみても、宝などひとつかけらも出てこない。やがて秋がきて、その葡萄山には、国中他のどこを探してもみられないほど、ゆたかに葡萄がみのつた。息子たちはそのときになってようやく、父が自分たちに遺してくれたものが何であつたかを悟つた。それは、幸福は黄金のなかにはなく勤勉のなかにある、というひとつの経験だつたのである。

(高原宏平訳「経験と貧困」、『暴力批判論』、晶文社)

ベンヤミンは、かつてはこのような経験が世代から世代へ語りつがれてきたと言っているが、その「経験」が、はたしてベンヤミンの言うように「幸福は黄金のなかにはなく、勤勉のなかにある」という経験であったかどうかは疑わしい。このはなしは、老人の臨終の言葉などというものがいかにあてにならないものであるかを笑う物語であったかもしれないし、人生の意外性を物語っているはなしとして受けとることもできる。民話が寓話として小学校の教科書に載せられたのは、やはり、きわめて歴史的な現象なのである。

今日、民話は聴かれるのでも、読まれるのでもなく、むしろテレビや映画によって見られるものであり、絵本のなかの民話もヒットしたテレビや映画の民話番組から逆にリメイクされる。こうした傾向は、一九二〇年代に出はじめた傾向だが、これは、十九世紀後半から二十世紀にかけて民話が教訓的な教育装置と化し、また現実を忘れる空想的な逃避装置となるという傾向がなかったら不可能だったろう。二十世紀になって急速に発達した文化産業は、科学技術の発達に負うところ大であるとしても、それは、すでにある程度開拓されていた文化的ネットワーク（たとえば読書や社交のコミュニケーション回路）を利用してその網をひろげていったのである。

（粉川哲夫『電子人間の未来』による）

（注） 1 エルンスト・ブロッホ——ドイツ出身の哲学者（一八八五—一九七七）。

2 アニミズム——自然界のあらゆる事物に靈魂が存在するという信仰。

3 トーテミズム——ある氏族や部族が、特定の動物・植物など（トーテム）を自らの祖先として崇拜すること。

4 ヴァルター・ベンヤミン——ドイツ出身の思想家（一八九二—一九四〇）。

問

(A) 線部(イ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)
 (B) 線部(1)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 月も星もない夜の真の暗黒というものがあるのに、現代を生きる私たちの誰もがはや想像すらできなくなつた。

2 夜に活動する魔物や幽霊などの仕業とされ恐れられたものが、科学技術により解明され恐怖の対象でなくなつた。

3 終夜消えることのない電灯などの照明が増えたために、暗い夜に活動する化け物や幽霊の生息の場が失われた。

4 人々の恐怖をそそる化け物や幽霊の存在感が薄れ、それらが潜むにふさわしい暗黒の夜に関する想像力も失われた。

5 現代社会では昼の明るさがますます好まれるようになり、夜の暗さがもつ重要な価値についての理解が失われた。

(C) 空欄 a・b には、それぞれどのような言葉を補ったらよいか。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。

a				
5	4	3	2	1
民衆	権力	伝統	例外	幻影

b				
5	4	3	2	1
放置	廃棄	隔離	降格	移設

(D) ——線部(2)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 古い口語的なスタイルの民話が終わって、新たに洗練された装いの民話へ進化した。

2 子供部屋から脱出した民話が再び終わり、歴史の彼方に去って行った。

3 民話の反権力性やうさんくさはいったん評価されたが、再び消え去る運命にあった。

4 民話の幻想的な姿がいったんよみがえった後、再び別の姿へと変容していった。

5 非理性的として抑圧された民話の終末は、次の時代における再生につながった。

(E) ——線部(3)について。本文中からこれと相反する内容を表現している十一字(句読点を含む)の部分抜き出せ。

(F) ——線部(4)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 神話や寓話には、古い反社会的な物事を物語という中立的な形にして語りつぐ役割があった。

2 神話や寓話には、教訓を学ばせたり現実を忘れさせたりする装置という役割があった。

3 神話や寓話には、あまり知られなかった歴史現象を広く認知させる役割があった。

4 神話や寓話には、物語がもともと持っていた豊かな解釈の可能性を保存する役割があった。

5 神話や寓話には、物語の印象を意図的に空想的・幻想的なものにする役割があった。

(G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 民話が文字化されたことにより、受け手は上流階級にまで広まった。

ロ ブルジョワジーは、民話のなかの規律、勤勉、実用性を健全と評価した。

ハ 民話の本質的な価値は、ロマン派が評価したような主体的要素にあった。

ニ 民話が教科書に載るのは、歴史的な現象に子供の関心を向けるためである。

ホ 現代の文化産業もまた、民話の変容にみられる歴史的な過程の影響を受けている。

二 一九八四年に書かれた左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

毎週月曜日の夜十一時十五分、居住まいを□□テレビの受像機の前にすわる。ほんの数分間ながら、アメリカ大リーグの情報が映像として流されるからである。今晚もまた、デイヴ・ジョンソンに会えるのではないかと胸がしめつけられる思いだ。だが、ほとんどの場合、そのはかない期待は裏切られる。それでもこの習慣をたち切ることができないほどにジョンソンには惹きつけられる。

たった一度だけ、ダッグアウトに髭面のジョンソンの姿を認めたとき、全身が総毛立つのを覚えた。彼だ……。そう思えるだけで幸福なのである。今シーズンから彼が監督として指揮をとるメッツがナショナル・リーグ東部地区で好調な出足を見せていることなど、どうでもよろしい。ジョンソンの姿を、一瞬でも見られるだけで、背筋に甘美な戦慄が走りぬけるのだ。

例えば、ジョンソンが読売巨人軍でプレーをした二年間は、わが生涯でもっとも幸福な一時期であった。生まれて初めて、ベースボールの美しさに目覚めたのである。ボールをはじき返すのではなく胸元深くまで呼びこみゆるやかにバットに乗せて外野に送りだすそのスウィングは何とも官能的だったし、空振りさえが色っぽかった。とりわけ二年目の二塁の守備、こんな美しいものが世の中に存在しようとはとても想像出来なかつたので、息を殺してそのプレーを記憶しつづけた。なぜか、北軍に無二の親友を持つ南軍の青年将校が、親友の身の上を気づかいながらサーベルを抜くときのような名誉ある諦念がそのプレーを優雅なものにしている。正直いって日本にはもつたない選手だった。その彼が、球場に足を運ぶときまつてホームランを打ってくれるのだ。三塁ベースをまわるとき、その頬は、いつも少女のような恥じらいで薄いバラ色に染るのだった。彼がバッターボックスに立つと、胸がしめつけられて、とても目を見開いたままだいることなどでははしない。それは、声援の対象ですらなく、ひたすら瞳を閉じて祈るしかない何ものかであった。

そんな打明け話に耳を傾けてくれたある女性は、わかるわとうなずく。彼女は競馬狂であり、心惹かれる馬が

スタートの位置につくと、もう目を閉じて祈ることしかできないというのである。でも、その馬も、もう引退してしまつた。ときおり競馬場に行つてはみるけど、あの興奮は二度と戻つてはこない。その言葉はジョンソンが日本を離れてからの後樂園球場のさみしさを代弁していた。

大リーグに復帰したジョンソンは、代打で二本ほどホームランを打つた。そのうちの一本は、たしかサヨナラである。それは、涙なくしては耳にしえないニュースであつた。いらい、3Aの監督として若菜の世話をやいてくれたといつた話を聞いたとき、どれほどこの挫折した元阪神の捕手を嫉妬したことだろう。メッツの監督に迎へられたジョンソンは、いま、順調に指揮をとつている。同じ新人監督でも王貞治よりは恵まれたスタートを切つたわけだ。だが、それを喜び祝盃ははをあげるといつたはしたないまねだけはすまいと思つている。

デイヴ・ジョンソンが読売巨人軍でプレーした最初のシーズンは長嶋新監督のもとでジャイアンツが最下位を独走した年として記憶されているのだが、そのとき、日本のプロ野球界は、奇妙な論理的混乱(注8)を体験した。誰も「AはBではない」というごく単純な論理学的命題を断乎ことごととして認めまいとしたのである。

Aは、この場合、ジョンソン選手であり、Bは、選手としてサードを守り、クリーンアップを打つた長嶋茂雄である。あるいはその逆だといつても事情は変わらないのだが、とにかく引退した長嶋のかわりに大リーグから招かれ、伝統ある打順とポジションとを与えられた以上、ジョンソンは長嶋でなければならなかつたのだ。

この期待はわからぬではないが、それがあまりに肥大した結果、「AはBではない」というごく当り前の事実が不当な仕打ちのように思われてしまつたのだ。デイヴ・ジョンソンは、観客の側のこつした論理的な混乱を背負つて登場した不幸な選手である。彼はジョンソンとしてではなく、長嶋茂雄ではない、三塁手としてプレーしなければならなかつた。ジョン損ジョンソンというつまらぬ語呂合わせが事態を一層混乱させ、空振り一つ、ファウルチップ一つまでが、BでなければならぬAの不幸をきわだたせたのである。だがそれにしても、AはAであり、BはBであるという事実が、これほど人びとを失望させたことがあつただろうか。

いうまでもなく、ここで混乱しているのは観客の期待であつて、デイヴ・ジョンソンその人ではない。死球を

受けて手を骨折したり、膝に水がたまつて治療したりというアクシデントに悩まされながらも彼は、在籍二シーズンを通じて、いくつもの忘れがたいプレーをヒロウしてくれた。もつとも、優勝がかかった広島戦で決定的なホームランを放つたといった事実が忘れがたいわけではない。翌朝のスポーツ紙の論調が王のホームランの讚美に終始したといった話をいまさら蒸し返そうというのでもない。ジョンソンの残した偉大なる遺産は、自軍の勝利に貢献することだけがプレーヤーの義務ではないという事実を、そのグラウンドでの振舞いによつて一部の観客の記憶に刻みつけてくれたことにある。というのも、彼のプレーは、何よりもまず官能的な艶を帯びていたからである。

艶とは何か。計算できる結果にはつながらない身のこなしである。ある人の言葉を借りれば、過程のなめらかさが艶ということになるだろう。アウトとかセーフとか、そうした結果によつては救われえないグラウンド上の振舞い、それが艶である。プロ野球が見世物である以上は、この艶がなければならぬ。せつばつまつた振舞いを演じ、アウトにしたからいいだろうといった感じで居直られると何とも興醒めなのである。打点をたたき出したんだから文句はなからうといった選手のプレーは、色つばくない。

その点、デイヴ・ジョンソンは、結果の良し悪しではなく、もつぱら過程の美しさに賭けていたのだ。とりわけ、二塁を守つた二年目がそうだった。守備の上手下手をいうのではない。彼がその位置に在るだけで球場が明るさを増したのである。ジョンソンは、日本プロ野球が持ちえた最も華麗な二塁手だつたと思う。彼のプレーは、捕球して一塁に送球するとき、アウトにする以上のことを確実にやつてのけた。つまり、見せてくれたのである。

われわれが球場に足を運ぶのは、より多くの打点、より多くのアウトを律義に数えたためではない。あくまで選手たちのプレーを見に行くのだ。そして、見るに値するプレーを演じる選手がますます少なくなつていくとき、改めてジョンソンの華麗な身のこなしが思い起こされる。結果に対する義務の意識から可能な限り遠いベースボール的なパフォーマンスがそこで演じられていた。軽業めいた、いわゆる好プレーではなく、ボールと自分自身との調和ある関係を楽しみ、かつそれを他人にも楽しませようとしながら、しかもおしつけがましさは微

塵も感じられないプレー。われわれは、ジョンソンを見ながら、ベースボールの美しさを初めて知ったのだとい
ってよい。それは、まぎれもなく、「AはBでない」ことの美しさであった。長嶋はとにかく面白かった。そして
ジョンソンは美しかったのである。

長嶋茂雄が四年の浪人生活を送り、王貞治が監督一年目を無残な成績で終った年、デイヴ・ジョンソンは新人
監督としてナショナル・リーグ東地区に波乱をまき起し、メッツを二位に浮上させた。彼の髭面によるサイハイ^(a)
ぶりは、そのプレーのように美しい艶を帯びているのだろうか。

(蓮實重彦「デイヴ・ジョンソンは美しかった」による)

(注)

- 1 ダッグアウト——監督やコーチ、グラウンドに出ていない選手のための控え席。
- 2 ナショナル・リーグ——アメリカのプロ野球リーグの最高峰である大リーグ(メジャーリーグ)を構成する二リーグの一つ。
- 3 読売巨人軍——プロ野球チーム。正式名称は読売ジャイアンツ。
- 4 北軍・南軍——アメリカ合衆国で起きた内戦(南北戦争)の際、敵味方に分かれて戦った両軍。
- 5 サヨナラ——後攻のチームが最終回または延長回で相手を上回る得点を上げると同時に試合が終了すること。
- 6 3A——大リーグの傘下に属するチームの総称。阪神タイガースの捕手だった若菜嘉晴が特命コーチとして一時所属。
- 7 王貞治——プロ野球選手・監督。
- 8 長嶋新監督——長嶋茂雄。プロ野球選手・監督。一九七四年までジャイアンツの選手として活躍した後、ただちに同チームの監督に就任し、一九八〇年まで務めた。
- 9 クリーンアップ——野球の打順のうち、強打者が入ることの多い三、四、五番のこと。

問

(A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書かいしよで記すこと)

(B) 空欄 にはどのような言葉を補つたらよいか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 繕繕つて
- 2 改めて
- 3 整えて
- 4 正して
- 5 構構えて

(C) 〓 線部(1)について。筆者がそのように考える理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ベースボールの国アメリカからやってきたジョンソンが、日本独特の文化である野球に適応すべく、孤独な苦闘を強いられた事情を思いやるゆとりが当時の日本にはなかったから。
 - 2 日本の野球文化がアメリカのそれと比べて圧倒的に遅れており、万人に理解できる長嶋茂雄のおもしろさしか認めようとしなかったから。
 - 3 長嶋茂雄たれという日本の観客からの凄まじいプレッシャーに押し潰された結果、ジョンソンがその本来の実力を発揮することを妨げられたから。
 - 4 一挙手一投足を長嶋茂雄と比較されることよって「失敗」が強調され、結果には回収できないジョンソンのプレーの魅力がますます評価されにくくなってしまったから。
 - 5 メジャーリーグで活躍した名選手の晩年にふさわしい環境を日本が提供できなかったせいで、ジョンソンが怪我を負うはめになり、満足なパフォーマンスをなしえなかったから。
- (D) 〓 線部(2)について。このような「論理的混乱」の具体例として合致しないものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 熱烈に愛読している漫画作品を原作とする実写版ドラマを見て、キャラクターのイメージがまるで異なっているのに憤りを覚える。

2 単身赴任中の社員が、家族とは日常的に会えなくなったので、その写真を携帯電話の待ち受け画像にしている。

3 その将来を囑望していた長男を失った両親が、同じ期待を次男にかけるようになる。

4 応援していたアイドルが自分の嫌いな俳優と交際していると知り、深く失望する。

5 不祥事を起こした芸術家の作品が美術館から撤去される。

(E) 線部(3)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 極めて自然であるがゆえに、観客の視線を終始くぎづけにするプレー。

2 スポーツマンシップに則って、敵味方を区別なく尊重する紳士的な振舞い。

3 抜群の技能を有しているという優位性から生じる余裕に満ちたプレー。

4 スポーツとは見世物にほかならないと割り切つて、ファンサービスを意識したプレー。

5 動きにまったく無駄がなく、優雅に見せようとする身のこなし。

(F) 線部(4)について。このようなプレーを生み出した精神を筆者が端的に言い表している部分を本文中から抜き出し、六字以上八字以内で記せ。

(G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ スポーツはあくまで結果がすべてであるとして、求められる結果を得るためであれば手段を選ばない選手
のプレーには色つばさが欠如しており、興奮めである。

ロ 長嶋茂雄は、求められる結果を高い確率で実現して観客の期待にこたえるだけに留まらず、その実現の仕方
において予想をいい意味で裏切り、人々をあつと言わせるエンターテイナーだった。

ハ 「AはBでない」ことの美しさとは、Bでなければならぬという義務を課そうとする周囲をよそに、か
けがえのない存在としてのAであり続ける過程そのものである。

ニ 自身のプレーの成功をこれ見よがしに誇つたりはしないジョンソンを愛する場合、声援を送つたり祝盃を

あげたりするようにはしたない振舞いは似つかわしくない。

ホ ジョーンソンによつてベースボールの美しさを教えられる以前の日本野球には、自軍の勝利に貢献する義務を負つた選手と、彼らの上げる打点やアウトにした回数を義務的に数える観客しかいなかった。

三 左は、『枕草子』のパロディ本として江戸時代につくられた『尤之双紙』のうち、「恥づかしき物の品々」と題して書かれた文章である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

婿も嫁もまだいはけなき時の祝言⁽¹⁾。親子兄弟の中にて、かの物語。人中にてとりはづしてのおならば、誰も恥づかし。偽りの顔はれたるも恥づかし。

醉狂⁽²⁾しける者は酔ひさめて恥づかし。いとけなき時、親のいさめをきかで、いたづらに生ひ立ちぬる者は、老いて恥づかし。やごとなき人の御中へ、 者の、みさほに色もかはらぬ、垢つきたる、着なれ衣を着して出るは、いと恥づかし。夕霧^(注2)の君と雲井の雁、いとけなくおはせしころ、御祖母^(注3)の大宮のもとに二人ましましけるが、互ひにさくじりおよすけて、いつとなくまろびあひ給ひけるを、乳母^(注4)、夕霧を「六位すくせ」と言ひおとしめ叱りしかば、幼な心にもいかに恥づかしくや思ひ給ひけん。

もろこしに、王籠^(注5)といへる者のところへ、客の来たりけるに、めづらしき初瓜^(注6)を出したるに、客しづ心なく、瓜の皮を厚くむきて食し侍りぬ。さてその皮を地に捨てければ、王籠客の目を忍びて、この皮をとりて食ふ。客これを見て恥づかしく思ひけるとぞ。

昔、津の国難波^(注7)の里に、いとむつまじき夫婦の者あり。「かくて朝夕のけぶり絶え絶えに衰へはてんよりは」とて、二人が中を引きわかれて出でにけり。程経て女、身を富みてふるさとへ帰り来にければ、男ただ一目みて、おのが姿の尾籠^(注8)なるをいと恥づかしくや思ひけん、むばら、からたちの中へはい隠れにけり。

⁽⁹⁾ あしからじよからじとてぞ別れにきいとど難波の浦は住みうき

もろこしに、陳囂^(注9)といふ者、民紀伯^(注10)といふ者あり。すなはち隣なり。民紀伯よるひそかに陳囂が地を盗みて、垣をひろげてわが地になす。陳囂これを見て、民紀伯が見ざりし間に、我が地を一文ばかり入れて、伯に与へければ、大きに恥づかしく思ひけるとぞ。その国の大守周府君^(注10)これを聞きて、陳囂が義を感じて、その里の名を改めて、義里と名付け侍りぬ。

(注) 1 みさほに色もかはらぬ——いつも変わりばえしない。

2 夕霧の君と雲井の雁——以下、『源氏物語』「少女」の巻による。夕霧は光源氏と葵の上の間の息子。夕霧と雲井の雁は幼少期からともに育ち、のちに結婚した。

3 御祖母の大宮——夕霧と雲井の雁の祖母。夕霧にとっては母方の、雲井の雁にとっては父方の祖母にあたる。

4 乳母——雲井の雁の乳母。

問

(A) ——線部(1)の語の意味として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 とるにたりない 2 だらしない 3 頼りない

4 幼い 5 貧しい

(B) ——線部(2)の意味として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 乱暴に 2 わがままに 3 悪ふざけをして

4 苦勞をして 5 役にも立たずに

(C) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で

答えよ。

1 いまめきたる 2 なまめきたる 3 ときめきたる

4 おとろへたる 5 おこたりたる

(D) ——線部(3)の意味として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 早熟で 2 生意気で 3 無分別で

4 ふざけて 5 だらしなくて

(E) ——線部(4)を漢字に改めよ。ただし、楷書かいしよで記すこと。

(F) 線部(5)について。『源氏物語』の本文には、夕霧のこのときの心情について、「我をば位なしとは

したなむるなりけりと思すに、世の中恨めしければ、あはれもすこしさむる心地してめざまし」とある。『源氏物語』における夕霧の心情の説明として、最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 立派な身分の夕霧は雲井の雁とは釣り合わないと言う乳母の非情さに興ざめし、あきれはてた。
- 2 自分が立派な身分であることを乳母に理解してもらえず、乳母を慕う気持ちがいらいだ。
- 3 雲井の雁との夫婦仲をうらやんで悪口を言う乳母を、物の情趣を解さない人物とみてあわれんだ。
- 4 自分が低い身分であることを乳母にけなされて口惜しく、雲井の雁への恋情も薄れる気がした。
- 5 夕霧には雲井の雁と会う資格はないと言う乳母の批判を聞き、前世からの因縁に気づいて反省した。

(G) 線部(6)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 だらしなく
- 2 落ち着いて
- 3 いやしさを隠して
- 4 遠慮なく
- 5 あわただしく

(H) 線部(7)について。客はなぜ「恥づかしく」思ったのか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 王麗のもてなしを解さずいやしい行動をとらせたから。
- 2 王麗をさしおいて初瓜を一人で食べてしまったから。
- 3 初瓜の皮が貴重であることを知らなかったから。
- 4 初瓜が王麗の好物であったことに気づいたから。
- 5 せっかくの初瓜を地に捨てたのは無礼であったから。

(I) 線部(8)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 食事
- 2 燃料
- 3 葬儀
- 4 喧嘩けんか
- 5 苦惱

(J) 線部(9)の歌の説明として正しいものを1、正しくないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 「あし」には「葦」も掛けられている。

ロ 「あしからじ」は「よからじ」を導く枕詞である。

ハ 「別れにき」の「き」には詠嘆の気持ちが込められている。

ニ 「よからじとぞ」の「ぞ」は打消推量の「じ」を強めている。

ホ 「難波の浦」は歌枕である。

(K) 線部(ロ)について。なぜそう思ったのか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 陳騫は、自らの行動が民紀伯のためにはならないことに気づいたから。

2 陳騫は、民紀伯に張り合おうとした自らのあさはかさに気づいたから。

3 陳騫は、民紀伯と同じ罪を自らも犯してしまったことに気づいたから。

4 民紀伯は、陳騫の行動を知って自らのさもしさに気づいたから。

5 民紀伯は、陳騫との土地の奪い合いが不毛なことに気づいたから。

(L) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 古今東西の恥ずかしいことがらをとりとめもなく記し、多彩な話題を読者に提供している。

ロ 説話や古典を適宜引用することにより、昔の人の風習や考えとの相違を的確に指摘している。

ハ 「恥づかし」の語に「恥ずかしい」「立派だ」の両義があることを利用して、話題に多面性を与えている。

ニ 日本と中国とは恥ずかしいと感じることがらに違いがあることを具体的に示している。

ホ 『枕草子』を卑俗化、滑稽化するだけでなく、まじめな教訓や古典の知識をもとりまぜている。

(M) 線部(a)～(c)の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で

答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 完了 2 存続 3 過去 4 過去推量 5 仮定・婉曲 6 意志

【以下余白】

